

令和7年度 大阪府立豊中支援学校 第1回 学校運営協議会記録

- 1、日時：令和7年6月11日（水）10：00－12：15
- 2、場所：本校調理室
- 3、構成：＜ 委員 ＞ 4名
 ＜事務局＞ 校長、准校長、教頭2名、事務長、首席2名
 ＜ 傍聴 ＞ なし
- 4、内容

10:00	第1回協議会次第説明 校長挨拶 協議会委員・事務局の紹介 校内見学	(事務局) (校長)
10:40	委員長選出 報告及び協議、質疑応答 ・令和7年度学校経営計画及び学校評価 ・令和7年度 キャリア教育全体計画 ・令和7年度 選定教科書について ・令和6年度の進路状況について ・本校の防災の課題について	(校長) (委員長) (校長、准校長) (首席) (首席) (首席) (首席)
12:10	事務連絡 准校長挨拶	(事務局) (准校長)

上記のとおり報告等を行い、各委員より次のような意見をいただいた

令和7年度学校経営計画及び学校評価、学校生活全般、キャリア教育全体計画について

＜学校より＞

- ・中期的目標について、「児童生徒一人ひとりの人権を尊重・安全で安心な学校」を第一に位置付けした。学校の「安全・安心」が基盤にあって、様々な教育活動がすすめられると考える。
- ・キャリア教育について、事業所とつながり、卒業後の子どもたちの活躍の場をつくり、可能性を広げていく方法を模索中である。
- ・センター的機能について、引き続き高等学校の支援を進めているが、地域の小・中学校においては、支援教育を学校体制として機能的に進めていただくことに難しさを感じている。本校の支援を点ではなく線、面にしていく指導助言となるよう、取り組んでいく。
- ・高等部の学校経営計画について、キャリア教育の推進において、職業コースの整理をめざす。

＜委員より＞

- ・子どもたちが経験したことが身につくには時間がかかる。小学部からつながりを持ち、積み重ねていくことが大事。
- ・地域の学校では支援学級在籍の子どもたちのタブレット端末を用いた活用方法を模索中である。支援学校との協力、交流の中でさらなるICT機器の活用方法を見出したい。
- ・ICTの教育実践について、これまでの「推進」から「どう使っていくか、良さを考えて見出していく」目標に期待する。

- ・卒業後の子どもにあった就労、学びにつなげていくという視点をもっている。
- ・キャリア教育は継続が大事。継続していくには教員の力が必要である。そのために、教員同士の縦のつながりが重要視される。
- ・振り返りシートを用いるという工夫が良い。各学部のキャリア教育を振り返りながら進められるといいな、と思う。

本校の防災の課題について

<学校より>

- ・「校内の安全・安心を高める」をテーマに、児童生徒数が多い状況から、環境や体制を整えて減災につなげていく工夫について報告。
- ・令和6年度の保健室の利用状況から見えてくることや、令和6年度までのPTAによる校内安全点検より、改善点について考えた。
- ・セーフティプロモーションスクール(SPS)認証取得の模索から、「生活安全」「災害安全」「交通安全」について本校の取り組みと、今後の課題を報告。

<委員より>

- ・PTAとして今年度も協力して取り組んでいく。(安全点検・ケロベロス・弁慶の購入と講習)
- ・行事ごとの安全意識を教員も保護者ももっと持たないといけない。
- ・有事の際の保護者引き渡しを年に1回でも取り組むべきだ。これだけの児童生徒数が在籍する中、それだけの保護者が同時に迎えに来た際のシミュレーション(自家用車の誘導など)は必要ではないか?発信だけではなく実践も大事。
- ・校内環境問題においては、限られた空間でいかに安全に過ごせるかの工夫も必要。日頃から心身の安定を図る方法を身につけることも一つ。例えば呼吸法・太極拳に取り組んだら、子どもの動きがゆっくりに変化してきたという事例もある。事故防止につながるのではないか。

令和6年度進路決定状況、新規採択の教科書等、その他について

<学校より>

- ・昨年度の進路の報告。
- ・高等部の進路指導における教員体制からくる課題。
- ・教科書選定の工夫や傾向をお伝えした。

<委員より>

- ・教員は実習先の見学をしているか?担任が実際に足を運べるのが理想。受け持つ生徒のために一緒に考えていくという意識が大切。日々多用の中、工夫していけたら良い。
- 実習の付き添いの際に、その事業所等について説明を受けるなどして情報をいただき、生徒の実態に合うかなど考える材料になっている。また、その内容は学校で共有している。
- ・重度の障がいをもつ人たちが作業できる場がなくなっている。受け皿をつくることも難しい。「事業所と連携して取り組む」という校長の考えから、在校生数の多い本校のためにも、少しずつ進めていけたらいいな、と思う。
- 「生活介護」と「就労継続支援B型事業(非雇用型)」の雇用枠がなく、卒業を控える生徒の進路先が決まらない点は本校でも課題である。
- ・教科書選定の状況を確認することができた。
- ・選定教科書を意識して採択されていることや、現代にあった内容の教科書が用いられていること。また、イラストがあり、わかりやすいと感じた。
- ・卒業生は、学校に来たい、先生に会いたいと思っている。先生方のご協力をお願いします。